

第15回山都町支部体協対抗駅伝大会

11月17日、第15回山都町支部体協対抗駅伝大会が開催されました。

これまで旧町村を横断する国道218号線を主要コースとして開催してきましたが、本大会から浜町（役場前町道）～下名連石～浜町（役場正門）、9区間17.3kmの新たなコースでのレースとなりました。

午前10時の号砲とともに17支部体協の選手がスタートし、中盤までは、区ごとに上位5チームが入れ替わる大混戦でしたが、8区でトップに立った御岳体協がそのまま逃げ切り、見事優勝を成し遂げました。最優秀選手賞には御岳体協の澤田和泉さん、敢闘賞には下名連石体協の山本麻奈さんが選ばれました。

大会当日は天候にも恵まれ、また沿道からも多くの声援があり、大いに盛り上がった大会となりました。

最終順位

| 順位 | 体協名 | 総合タイム | 順位 | 体協名 | 総合タイム |
|----|---------|-----------|-----|--------|-----------|
| 1位 | 御岳体協 | 1時間06分09秒 | 10位 | 上差尾体協 | 1時間10分39秒 |
| 2位 | 下矢部東部体協 | 1時間06分37秒 | 11位 | 中島東部体協 | 1時間12分07秒 |
| 3位 | 下名連石体協 | 1時間07分13秒 | 12位 | 通潤体協 | 1時間13分28秒 |
| 4位 | 東竹原体協 | 1時間07分20秒 | 13位 | 橘・花上体協 | 1時間13分37秒 |
| 5位 | 朝日体協 | 1時間07分46秒 | 14位 | 浜町B体協 | 1時間14分26秒 |
| 6位 | 清和体協 | 1時間08分05秒 | 15位 | 中島南部体協 | 1時間15分17秒 |
| 7位 | 菅尾体協 | 1時間08分16秒 | 16位 | 馬見原体協 | 1時間17分05秒 |
| 8位 | 浜町C体協 | 1時間08分26秒 | 17位 | 中島西部体協 | 1時間18分10秒 |
| 9位 | 小峰体協 | 1時間09分09秒 | | | |

区間賞

| 区間 | 選手名 | タイム |
|-----------|------------------|-------|
| 1区(1.8km) | 田上 恵士 選手 (浜町B) | 6分30秒 |
| 2区(1.8km) | 村上 直弥 選手 (御岳) | 5分59秒 |
| 3区(0.9km) | 木村 稔 選手 (浜町C) | 2分51秒 |
| 4区(1.7km) | 岩田 陽一 選手 (中島南部) | 6分14秒 |
| 5区(2.1km) | 下田 将臣 選手 (下矢部東部) | 7分56秒 |
| 6区(2.8km) | 後藤 将希 選手 (東竹原) | 8分14秒 |
| 7区(1.4km) | 水田 博文 選手 (御岳) | 5分05秒 |
| 8区(2.4km) | 橋本 亜依 選手 (浜町B) | 9分12秒 |
| 9区(2.4km) | 山本 翔太 選手 (下名連石) | 7分35秒 |



初めての地元開催となった下名連石自治振興区の女性部の皆さんがカシを製作し、応援が途切れないよう民家がない区間に設置し、大会を盛り上げてくださいました。



町長室から 梅田 穰

11月16日に「来て見るとよい！幸せ築く支えあいの山都町」をテーマに福祉まつりが700名以上の町民の参加のもと盛大に開催されました。町内各保育園の園児による歌や踊りで開幕し、30地区の福祉部長による認知症をテーマにした創作福祉劇は場内爆笑の中、上演されました。笑いの中に、一人一人がいつ我が身になるかもしれないとの思いを強くしながら、山都町ならではの隣近所の強い支え合いの心を持ちながら共に生きる地域を築いていきたいと思えます。

が高齢化率は49・1%と山都町と変わらない状況の中、東京都の水源で周囲48kmの奥多摩湖をはじめ森林資源を生かした東京都民の憩いと癒しの場、やさしい出会いの場を提供する観光資源の豊富な町でありました。その中で、様々な子育て支援、定住支援、高齢者対策の「奥多摩創造プロジェクト」を立ち上げ、施策・事業を推進してまいります。その効果としてUターン17世帯61人、Iターン74世帯202人、町内転居80世帯233人、合計171世帯496人の実績とのことでした。特に町外転居の抑制につながる町内転居が多いことに注目した次第です。

令和元年度山都町表彰

11月5日、町では、自らの豊富な経験等を基に、独自の活動や地域での様々な活動に携われ、本町の町政の発展及び町民の福祉の増進等に寄与し、その功績が顕著で、町民の規範となる5名の方に対し、これまでの功績をたたえるために、表彰を行いました。

坂本 憲義 さん (新小) (左から1人目)

白糸第1地区社会福祉協議会の会長職時、地域で支え合い見守るしくみの構築を目指し、サポート養成講座やピンポンサロンを始めとしたミニサロンの立ち上げ等に尽力、現在も社会福祉活動に従事。

菅 清次郎 さん (上寺) (左から2人目)

藤壺道場の師範代として山下泰裕氏（小学生時代）を始め多くの門下生を指導。その後、泰武館（矢部警察署（現山都署））にて指導に当たる。また、永年に亘り少年補導員を務められ、地域の青少年の健全育成に取り組む。

高宮 公 さん (下馬尾) (左から3人目)

荒地地となっていた山神山の景観向上のため除草・雑木除伐作業を進められ、遊歩道や東屋を整備。その後も、永年に亘り管理に努められ、桜やツツジ等を多数植栽するなど、地域の憩いの場「山神山公園」の環境整備に尽力。



永谷 誠一 さん (井無田) (右から2人目)

故金栗四三氏と深く交流、「トライアスロンの父」と称される。九州脊梁山地の魅力に早くから気付かれ、九州初のトレイルラン開催に尽力。その後も、日向往還のルート踏査や山都フットパス協会の設立等で中心的な役割を果たす。

緒方 恵美子 さん (浜町) (右から3人目)

永年に亘り、矢部地区交通安全母の会の会長職を務められ、交通安全推進運動キャンペーンや飲酒運転撲滅活動に尽力。その他、学習支援ボランティアとして小学校応援、介護施設への演芸訪問による入所者との交流等に携わる。